

大問1

問一 a 組織 b 浴び c 姿

問二 A 背中

問三 B 老若男女

問四 (例)

食べることは単にカロリーをとることでも、栄養を摂取することでもなく、自分の体の一部が食べられたものに置き換わっていくという事実には驚き、感心している。

問五 (例)

食事は、何億年もの間別々の進化を続けた生命とそれを育んだ環境の歴史が自分の一部となる行為であり、宇宙と生命の歴史の表現とも呼べる豊かな行為で、感動と喜びを覚えるから。

問六 (例)

現代社会では、潤沢な自然の富は商品化され、お金を払わなければ手に入れることができず、そこには自然から与えられる感動も自由も無い。しかし、子どもたちは、自然からもらい、拾って生きるという、人間の原初的な経験をすることで、自然の恵みに対する驚きと感謝を実感し、自然に感謝しながら、物を分かち合い、贈りあい、助け合って生きることのできる人間に成長していく。

大問2

問一 a 樹林 b 情報 c 重量

問二 (例) ア 黄色い イ 大きい

問三 A 助け舟

問四 (1) (例)

けんか独楽がはじき合うように、競うほど仲の良いライバルと呼べる友達がいて、亡くなったことを惜しんでいる。

問四 (2) (例)

①の句では、読む人がライバルとの競い合いがイメージできるのに対し、自分の句は大地のパワーという良いイメージと友に対する親しみを込めたのに読み手であるソラに伝わらず、怒らせてしまうようなできの悪さだったので落ち込み、ソラに対して申し訳なく思っているから。

問五 (例)

いじめられた経験から自分が悪く思われているのではないかと思い、怒りを感じたが、俳句が大好きなハセオが揶揄い、馬鹿にするために俳句を作るはずがないとわかっていたので、ハセオの謝罪の前に許す気持ちになっていた。謝罪しているうちに俳句について一生懸命語るハセオが、自分にとってもう友達だと思っていることに気づき、うれしく思っている。

問六 (例)

自分に信頼できる友達ができていることに気づかせてくれたヒマワリの種を大切にし、友情を大切に育もうと思い、ハセオに感謝し、これからの生活を楽しみにしている。